

育ちと学びをつなぐ

ふくしま幼児教育研修センターでは、幼児教育の質的向上や架け橋期の教育の充実のために、福島県幼児教育振興指針に基づき、各種研修等を行っています。

幼児期は生涯にわたる人格形成の基礎を培うとともに、遊びを通して学びの芽生えを育む重要な時期です。そのため、小学校においてはその芽生えをさらに伸ばしていくことが必要です。

幼児期に遊びを通して学んだ子どもたちの育ちと学びが小学校以降にもつながるよう、園の先生方、小学校の先生方、そして、保護者や地域の方に向けて、本通信を通じて情報発信を行ってまいります。

福島県幼児教育振興指針：本県の乳幼児期の教育に関する取組の方向性を示したもの。（令和6年11月策定）

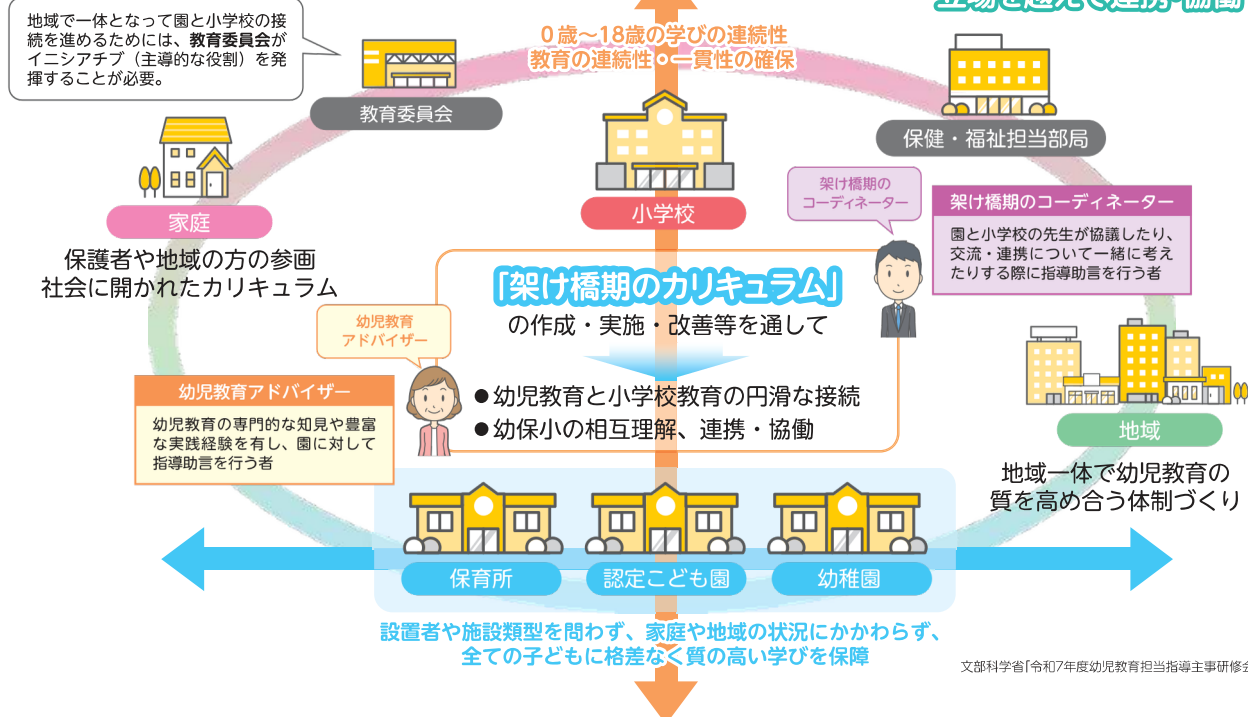
幼児教育と小学校教育がつながるために何が行われているの？

子どもの育ちと学びが円滑につながっていくように、「幼保小の架け橋プログラム」が推進されています。幼保小の架け橋プログラムは、子どもに関わる全ての関係者が立場を越えて連携・協働し、架け橋期にふさわしい学びの実現を図り、全ての子どもに学びや生活の基盤となる力を育むことを目指す取組です。

架け橋期：義務教育開始前後の2年間のこと（年長4月～小学校1年生3月まで）

幼保小の架け橋プログラムのイメージ

子どもに関わる全ての関係者が 立場を越えて連携・協働



文部科学省「令和7年度幼児教育担当指導主事研修会」より

園の先生同士が連携することで、全ての園で質の高い学びが保障されます。また、園と小学校の先生が連携することで、園と小学校の学びがつながります。さらに、先生と保護者との連携は、園や学校での学びが家庭でも生かされ子どもの生活を豊かにします。そして、先生と地域の方との連携は子どもたちの体験活動を充実させる上で欠かせません。地域みんなで子どもたちを育てていくことが大切です。

架け橋期の子どもたちのために、私たち大人が自分にできる取組を進めていきましょう。